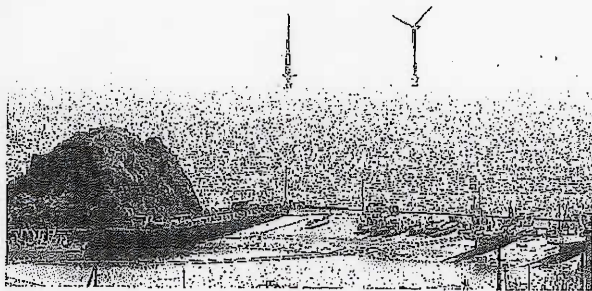


洋上風力促進へ合意

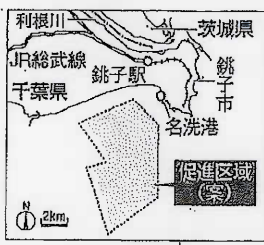
銚子沖、今秋にも国指定へ

銚子市沖で国が進める洋上風力発電の整備を巡り、地元関係者が参加する協議会が4日開かれ、優先的に整備を進める「促進区域」に国が指定することで合意した。早ければ今秋にも指定され、事業者が公募で選ばれる。全国にある「促進区域」の有望地では銚子が最も首都圏に近く、地元には地域活性化の期待も高まっている。



協議会で活性化期待の声

整備が検討されているのは銚子市の名洗港から南西1.5〜10キロメートルほどの海域約3950畝。東京ドーム約840個の広さがあり、ここに海底に固定される着床式の洋上風力発電施設を建設する。想定出力量は試算で最大47万キロワット程度。この海域にはすでに、東京電力が実証研究していた風力発電設備がある。



既にある東電の洋上風力発電設備
備12017年5月、銚子市沖

国は昨年4月、洋上発電の普及を進めるための新法を施行した。気象条件が適している、漁業や船舶航行に支障がなければ「促進区域」に指定する。公募で選ばれた発電事業者は最大30年間、海域の占有を認められる。

「促進区域」の有望地には銚子市沖のほか、秋田県「能代市・三種町・男鹿市沖」と同県「由利本荘市沖」、長崎県「五島市沖」の3区域も選ばれ、いずれも地元合意がすでになされて、五島市沖は昨年12月に初指定された。

銚子市沖は昨年7月、促進区域の有望地の一つに選ばれ、経済産業省や国土交

通省、県などが参加する協議会の初会合が昨年11月に開かれた。4日の3回目会議では、銚子市の越川信一市長が「漁業振興や、地元産業界と連携した地域経済の活性化の取り組みを応援したい」と述べるなど、地元自治体や漁協から要望や期待の意見が出た。

同時に、事業者は銚子市や旭市がつくる基金と県漁業振興基金に資金を拠出する▽漁業関係者や既に風力発電設備を置く東電と十分協議する▽国の名勝・天然記念物「屏風ヶ浦」の景観に配慮する▽建設する際は地元雇用を増やす▽希少な鳥類の生息や海流といった環境に配慮するなどを求めた。
(上田雅文)